

第九回公演感想文

私は、お神楽について豊富な知識を持ちません。ただ、これまでの神楽公演を学生さんたちが支えていることに魅かれています。前回、そして今回の公演を観覧しています。

私にも学生時代がありました。半世紀も前のことです。丁度、大阪万博の時、私は人混みが好きではないので出かけることはありませんでした。その代わり、夏休み一ヶ月をかけてオーストラリアをホームステイしながら、半周しました。

メルボルン大学のキャンパスで学生に声をかけられました。「日本は独立国ですか？」と訊かれてびっくり仰天。「勿論、独立国です」と答えたものの、「文化的にいったいどうなのか？」、「オリジナルなものはあるのか？」という問いに突き当たり、それ以来ずっと探し物の旅が続いております。見つかったもの、お神楽もその中の一つかもしれません。

前回の神楽公演では、隣の席にスイス人の若い男性が座っておられて、私はお神楽のアウトラインについて話しました。私が「スイスの山間にはキリスト教が伝わる以前の言い伝えや信仰がありますか？」と訊いたら「ない」とのことでした。「いや、ないとは限らないですよ。もしかしたら、あるかもしれませんよ。人が厳しい自然の中で生き抜いてきたのですから」と言ったら「言い伝えや踊りを探してみましょ」と答えてくれました。

そういう交流ができたのは、実行委員さんたちによる神楽の解説字幕、映像、公演解説プログラムのお陰です。

私は、宮崎の高千穂の神楽や埼玉の鷲宮の神楽を見たことがあります。そうしたものより、第九回公演に出演された相模の垣澤社中の里神楽は人々にもっと「見せる」、「楽しませる」神楽になっていたように思います。歌舞伎の見得が随所に見られ、衣裳も艶やかでした。

見せるといえば、話は変わりますが、小学生の時に『日本誕生』という映画が記憶に残っています。見られるものならば、もう一回見たいと思います。アメノウズメノミコトは三木のり平、タヂカラノミコトは相撲取りの朝潮関、ヤマトタケルは、記憶では三船敏郎でした。

神話というのは、語り継がれること自体、それなりのワケがあります。手繰り寄せる糸口を失ってはいけないと思います。お神楽は、その貴重な役目を持っているのではないかと思います。私の探し物はまだ続きそうです。博物館とかお寺、神社、お葬式・・・チャンスはいっぱいあります。なので、退屈して

おりません。

M.K (埼玉県さいたま市緑区在住)